



2022年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月12日

上場会社名 株式会社 井筒屋

上場取引所 東 福

コード番号 8260 URL <http://www.izutsuya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 影山 英雄

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 山本 直樹

TEL 093-522-3414

四半期報告書提出予定日 2022年1月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績(2021年3月1日～2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	38,311	5.7	691		550		564	
2021年2月期第3四半期	36,252	25.7	410		561		380	

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 173百万円 (%) 2021年2月期第3四半期 374百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	49.31	
2021年2月期第3四半期	33.19	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第3四半期	49,410	8,431	17.1	735.97
2021年2月期	47,987	8,257	17.2	720.78

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 8,431百万円 2021年2月期 8,257百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期				0.00	0.00
2022年2月期					
2022年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,000	2.9	1,000		700		700		61.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期3Q	11,480,495 株	2021年2月期	11,480,495 株
期末自己株式数	2022年2月期3Q	23,857 株	2021年2月期	23,693 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期3Q	11,456,730 株	2021年2月期3Q	11,457,020 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性のある重要な要因は、当社グループを取り巻く商圏動向、公的規制、自然災害・事故、金利の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年11月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が普及し、主要都市を中心に断続的に発令されていた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が2021年9月末で解除されるなど、経済活動回復への期待感が高まっておりますが、新たな変異株による感染症の影響をはじめ、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスク等も懸念され、いまだ先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

百貨店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言下での臨時休業要請や、営業時間の短縮による営業機会の縮小をはじめ、大型催事の中止やインバウンド需要の低調などにより、厳しい営業活動が続いておりました。緊急事態宣言解除以降、徐々に商況は復調の兆しが見え始めておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準には至っておりません。

こうした状況の中、当社グループにおきましても、9月末まで発令されておりました緊急事態宣言により入店客数減少の影響等がありましたものの、宣言解除以降の売上高は回復の兆しを見せております。引き続きお客様に安心してお買い物をしていただけるよう、これまでと変わらず、消毒等の環境整備や従業員の体調管理に万全の注意を払ってまいります。

本店におきましては、高額品消費や家中関連需要などの好調なカテゴリーを強化するとともに、コロナ禍における地元消費喚起に対応するべく、様々な地域活性化への取り組みを引き続き推し進めてまいりました。

好調カテゴリーの強化として、本館1階インポートブティックゾーンでは、3月の「ルイ・ヴィトン」リニューアルに続き、10月から11月にかけて「コーチ」のリニューアルや新規ブランド「サンローラン」、「バレンシアガ」のオープンなど、ラグジュアリーカテゴリーの品揃えを強化いたしました。あわせて、12月に本館1階「グッチ」、新館1階「ボッテガ・ヴェネタ」ショップにおいてもリニューアルを行いました。

地元消費喚起への取り組みといたしましては、プレミアム付き地域商品券事業への参画をはじめ、本館6階「きたきゅうコロンプス」では、コロナ禍における地域の活性化を図るべく、地元のつながりを活かした店内催事の開催や、地域イベントへの参画など地元企業、地元アーティストとの協業を積極的に進めております。その中でも、9月に初開催いたしました「パンとスイーツマルシェ」は、感染対策に留意しながらの開催ではありましたが、地元の人気店を中心に45店が集まり、多くのお客様で賑わいました。

オンラインショッピングでは、遠方にお住まいの方や外出を控えているお客様へ向けて、北海道物産展や福袋など人気企画の取扱数を増やすなど、お客様のニーズに応えられるよう取り組みを行っております。

山口店におきましては、3月に山口市と地域活性化を目的とした包括連携協定を締結し、中心市街地の活性化や地産地消の推進、市政情報の発信などの協力を図るため、地域の魅力を発信する交流スペース「コトサイト」を11月にオープンいたしました。また、商品施策として、新たにフレグランスコーナーや山口県初出店となるオーガニックヘアケアを中心とする「グラスアヴェダ」をオープンし、ご好評をいただいております。

一方、持続可能な社会に向けた取り組みといたしましては、“井筒屋サステナブルアクション”の一環として、森林保全に取り組む「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」と「小倉縞縞」の協力により、井筒屋オリジナルのクリスマスチャリティオーナメントを制作・販売いたしました。また、ご不要な衣類をお引取りする「クローゼットリサイクルキャンペーン」では、お寄せいただいた衣類が北九州市内の工場で自動車内装材の原材料にリサイクルされ、アップサイクルの一助となりました。全社で取り組む「サステナブルアクション2021」、環境目標並びに実績、及びその他ESGに関する取り組みにつきましては、当社ホームページのCSR欄に掲載しております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、コロナ禍において極めて厳しい商況にありながらも、地域のお客様に支えられ、売上高は38,311百万円（前年同期比105.7%）、営業利益は691百万円（前年同期は410百万円の営業損失）、経常利益は550百万円（前年同期は561百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は564百万円（前年同期は380百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となり、前年度を大きく上回る結果となりました。

当社グループは、コロナ禍においてお客様の安全を第一に考え、様々な感染拡大防止策をお客様にご協力いただきながら徹底いたしております。

引き続き、お客様に安心してお買い物いただける環境と、魅力ある品揃えやサービスの提供に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,423百万円増加し、49,410百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が増加したことによるものであります。

負債については前連結会計年度末に比べ1,249百万円増加し、40,979百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金や前受金が増加したことによるものであります。

純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末に比べ173百万円増加し、8,431百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の業績予想につきましては、2021年4月13日公表の通期業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日公表の「2022年2月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(注)上記の業績予想は、この資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,928	4,015
受取手形及び売掛金	1,511	2,565
商品	2,041	2,434
貯蔵品	20	18
その他	456	593
流動資産合計	7,958	9,627
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,184	10,872
土地	24,011	24,011
その他（純額）	582	567
有形固定資産合計	35,777	35,450
無形固定資産	245	214
投資その他の資産		
差入保証金	2,037	1,980
その他	2,025	2,191
貸倒引当金	△56	△54
投資その他の資産合計	4,006	4,117
固定資産合計	40,029	39,783
資産合計	47,987	49,410

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,839	5,269
短期借入金	11,833	11,833
未払法人税等	85	29
前受金	7,681	8,197
その他の引当金	205	284
その他	3,250	3,157
流動負債合計	26,897	28,771
固定負債		
長期借入金	7,843	6,843
再評価に係る繰延税金負債	2,874	3,278
商品券回収損失引当金	788	847
退職給付に係る負債	818	774
資産除去債務	279	272
その他	228	192
固定負債合計	12,832	12,208
負債合計	39,730	40,979
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,532	100
資本剰余金	11,904	924
利益剰余金	△19,950	2,026
自己株式	△27	△27
株主資本合計	2,458	3,023
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	21
土地再評価差額金	5,766	5,362
退職給付に係る調整累計額	19	24
その他の包括利益累計額合計	5,799	5,408
純資産合計	8,257	8,431
負債純資産合計	47,987	49,410

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	36,252	38,311
売上原価	27,943	29,523
売上総利益	8,308	8,788
販売費及び一般管理費	8,719	8,096
営業利益又は営業損失(△)	△410	691
営業外収益		
受取利息	0	0
持分法による投資利益	57	111
協賛金収入	4	7
未回収商品券受入益	236	272
受取賃貸料	48	49
助成金収入	180	152
その他	76	94
営業外収益合計	603	687
営業外費用		
支払利息	288	265
売上割引	231	270
商品券回収損失引当金繰入額	154	182
その他	78	110
営業外費用合計	754	828
経常利益又は経常損失(△)	△561	550
特別損失		
投資有価証券評価損	2	5
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	2	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△564	545
法人税、住民税及び事業税	51	44
法人税等調整額	△235	△64
法人税等合計	△183	△19
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△380	564
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△380	564

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△380	564
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△0
土地再評価差額金	—	△404
退職給付に係る調整額	9	4
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	9
その他の包括利益合計	5	△391
四半期包括利益	△374	173
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△374	173
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年4月20日開催の取締役会において、資本準備金および利益準備金の額の減少を決議するとともに、2021年5月27日の第126回定時株主総会に資本金の額の減少およびその効力が発生することを条件としたその他資本剰余金の処分について付議することを決議し、同定時株主総会において承認可決され、2021年7月1日に効力が発生しております。

それに伴い、当第3四半期連結累計期間において、資本金が10,432百万円、資本剰余金が10,980百万円それぞれ減少し、利益剰余金が21,412百万円増加しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当社グループでは、固定資産の減損及び税効果会計等におきまして、当該業績への影響が少なくとも2022年2月末ごろまで続き、その後徐々に回復すると仮定しておりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言は解除されたものの、引き続き新たな変異株による第6波の兆候が懸念されており、新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期は未だ不透明な状況が続いております。

こうした状況を鑑み、2023年2月期の一定期間にわたり当該影響が継続すると改めて仮定し、将来キャッシュ・フロー及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、当連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に想定できない影響を及ぼす可能性があります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。